

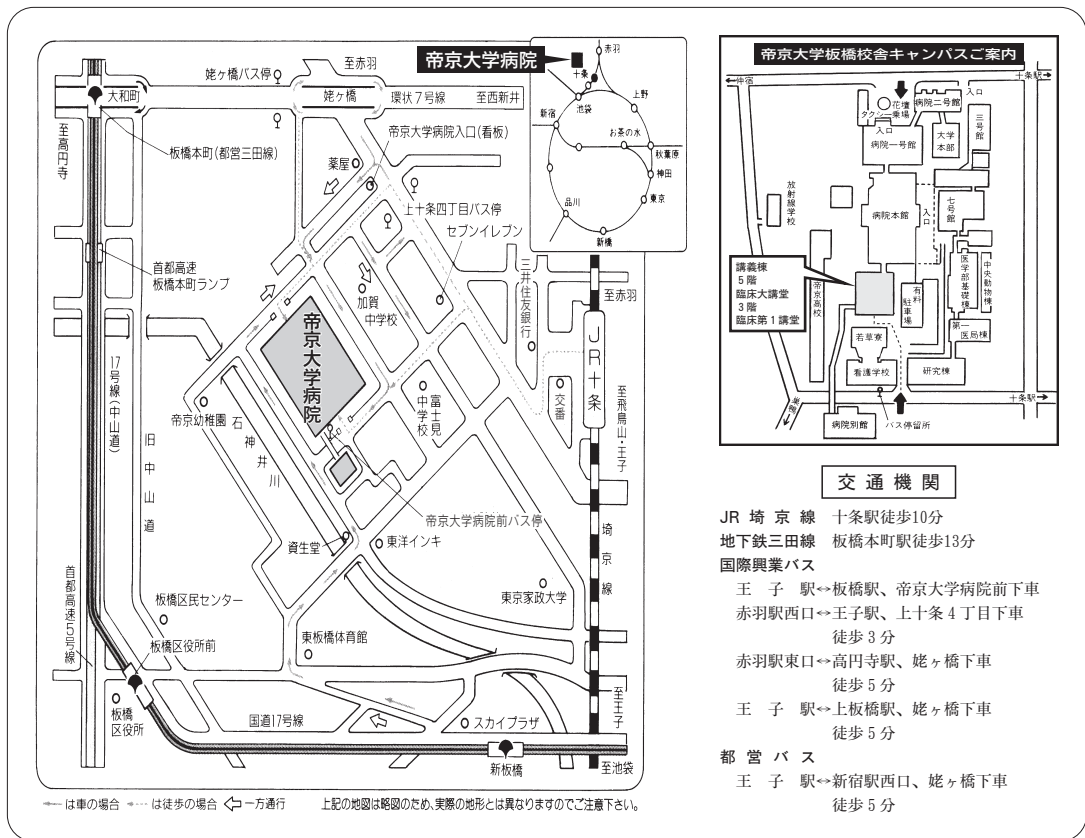
第 553 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プ ロ グ ラ ム

日 時 平成20年 1 月12日(土)午後 2 時00分

場 所 帝京大学講義棟臨床大講堂(5 階)



演題の申し込みについて

1. 講話会の当日、文書で提出、もしくは e-mail で事務局宛送ってください。
2. 抄録 (160字以内) をおつけください。
3. 原則として指定発言をつけてください。
4. 演者、指定発言者は、当日二次抄録 (200字以内) を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係

東京医科歯科大学 小児科

荒木 聡

03 (3813) 6 1 1 1

FAX 03 (5803) 5 2 4 7

会場係

帝京大学小児科

03 (3964) 1 2 1 1 内線 1 4 8 1

直通 (FAX) 03 (3579) 8 2 1 2

e-mail: pedi@med.teikyo-u.ac.jp

事務局

03 (5388) 7 0 0 7

e-mail: jps-tokyo@umin.ac.jp

第 553 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分, 指定発言 5 分, 追加討論 3 分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:45

座長 富田 直 (東京都立八王子病院小児内科)

1) 末梢神経伝導速度の著明な低下を認めた Dejerine-Sottas 病の 1 例

○柏井 洋文, 星野 英紀, 高橋 寛, 三牧 正和,
岡 明, 水口 雅, 五十嵐 隆 (東京大学小児科)

乳児期後期より筋力・筋緊張低下, 深部腱反射消失に気づかれた 1 歳男児。正中神経の運動神経伝導速度は 1 m/s と著明に低下しており, 神経生検でミエリンの高度欠損と多数のオニオンバルブを認めた。Dejerine-Sottas 病と診断し, 遺伝子検査にて PMP 22 の点変異を同定した。鑑別疾患を含め報告する。

指定発言 熊田 聡子 (東京都立神経病院神経小児科)

2) 脳室腹腔シャントチューブが肝臓に迷入した 1 例

○下澤 克宜, 藤田 英寿, 宗像 俊, 岡橋 彩,
松村 昌治, 木多村知美, 牧本 優美, 細野 茂春,
湊 通嘉, 岡田 知雄, 高橋 滋, 麦島 秀雄 (日本大学医学部小児科)

6 カ月の男児。脳室腹腔短絡 (以下 VP シャント) 術施行後 5 カ月後に発熱と嘔吐を認めた。腹部 X 線写真で右側腹部にチューブ尖端の固定化像と, 腹部 CT で肝臓への迷入及び肝膿瘍を認めた。チューブ抜去及び膿瘍ドレナージ術を施行し, 症状の改善をみた。VP シャントによる合併症として肝臓迷入は稀であり文献的考察を含め報告する。

3) VZV 感染による急性脳炎後遺症として難治性てんかんを示した 1 例

○小野 敏明, 滝島 茂, 高澤 啓, 三上健太郎, 佐藤 隆介,
宮田 理英, 和田 紀子, 畠井 芳穂, 神山 潤 (東京北社会保険病院小児科)

姉からの感染と思われる水痘を発症し, 湿疹が痂皮化してきたころに無熱性痙攣を発症。当院へ救急搬送された。髄液検査にて VZV-DNA-PCR 陽性となり, 頭部 MRI から VZV の脳炎と診断した。ACV にて加療したが画像上異常所見残存。精神運動発達には問題なかったが 4 カ月後に難治性てんかんを発症。現在もコントロール不良である。

4) Human herpesvirus 7 型 (HHV-7) 感染による hemiconvulsion-hemiplegia syndrome の 1 例

○森川日出男, 朝貝 省史, 松島 崇浩, 福江 靖,
藤村 公乃, 岡田 隆文, 松永 典子, 津村 由紀,
松原 啓太, 有馬ふじ代, 込山 修, 岩田 敏 (国立病院機構東京医療センター小児科)

発熱を伴う痙攣重積発作のため入院となった 1 歳 4 カ月の女児。左上下肢の麻痺をきたし, 画像検査で右大脳半球広範に亘る炎症所見と脳血流の低下を認めたため, hemiconvulsion-hemiplegia syndrome と診断した。血清の DNA 定量で HHV-7 が検出された。HHV-7 脳症の報告は少ないため症例を提示する。

第2グループ 14:45—15:05

座長 小野 真（東京医科歯科大学医学部小児科）

5) 悪性腫瘍の骨転移による高カルシウム血症に対しビスホスホネート製剤が奏効した1例

○河野 美緒, 三春 晶嗣, 嶋 晴子, 大隅 朋生,
嶋田 博之, 長谷川奉延, 高橋 孝雄（慶應義塾大学医学部小児科）

10歳女児。近医で高カルシウム血症（15.2 mg/dl）を指摘された。生理食塩水大量輸液、フロセミド、エルカトニン、プレドニゾンが無効のため当科に転院。横紋筋肉腫の多発骨転移による高カルシウム血症と判明した。ビスホスホネート製剤（ゾレドロン酸）が奏効した。高カルシウム血症の原因として悪性腫瘍の骨転移を鑑別することが重要である。

6) 新生児マススクリーニングで精密検査対象とならず、軽度甲状腺機能低下症と診断された4乳幼児例の臨床経過

○渡邊 友博, 鹿島田健一, 宮井健太郎, 水谷 修紀（東京医科歯科大学医学部小児科）

症例は新生児マススクリーニングでTSH再検査のみで、要精査検査とならなかった4例。甲状腺機能低下症の家族歴等はなく他の主訴、もしくは偶然に軽度高TSH血症を指摘され、その後も持続するため精査された。TRH負荷試験を施行したところ、いずれもTSH頂値が35 uIU/mlを示し、軽度甲状腺機能低下症が疑われた。

休 憩 15:05—15:15

感染症だより 15:15—15:25

座長 山本 光興（山本小児科）

多屋 馨子（国立感染症研究所感染症情報センター）

教育講演 15:25—15:55

座長 岩田 敏（国立病院機構東京医療センター小児科）

思春期の子どものeating disorder（anorexia and bulimia）

渡辺 久子（慶應義塾大学医学部小児科）

思春期の子どものeating disorderは死亡率の高い難治性心身症である。予防と早期発見が最も大切で、進んだ病状には長期の集中治療しかない。徐脈と成長曲線の低下がanorexiaの身体指標である。発症の背景には思春期に大人になることの不安緊張を食行動の異常に置き換えて乗り越えようとする病理が認められる。

第3グループ 15:55—16:35

座長 佐々木章人（東京医科歯科大学医学部小児科）

7) 単独で存在した稀な僧帽弁上狭窄輪の1乳児例

○中島 泰子, 稀代 雅彦, 織田 久之, 大槻 将弘, 佐藤 圭子,
大高 正雄, 根岸 佳慧, 秋元かつみ, 清水 俊明（順天堂大学小児科・思春期科）
川崎志保理（同・心臓血管外科）

症例は先天性僧帽弁狭窄の乳児。生後より異常を指摘されたことはなかったが、体重増加は不良であり3カ月時に当科へ紹介受診した。心エコーおよび心カテ検査で僧帽弁狭窄と、重症肺高血圧症を認めた。4カ月時の根治手術所見では、心エコーでははっきり観察できなかった膜状物が僧帽弁直上を覆っている僧帽弁上狭窄輪であった。単独での僧帽弁上狭窄輪は稀であり、文献的考察を加え報告する。

8) Warfarin の過量内服に惹起された咽頭後部血腫の1例

稀な気道閉塞の原因として

○安達 達也, 河内 貞貴, 斉藤 亮太, 高木 健,
寺野 和弘, 藤原 優子, 衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学小児科）

18歳男性。乳児期に川崎病に罹患し冠動脈瘤および腹部大動脈瘤を形成し、ワーファリンを含む血栓栓予防を行っていた。今回受診時は頸部の腫脹と斜頸、そして嚥下困難に伴う流涎が著明でCTより咽頭後部血腫が明らかになった。抗凝固治療に伴う咽頭後部血腫は稀であるが報告は散見される。症例の経過・問題点に文献的考察を加えて報告する。

9) 川崎病のガンマグロブリンに不応でステロイドパルスが有効であった姉妹例

○唐崎元一郎, 柏井 洋文, 雨宮 馨, 横山昌一郎,
鈴木里伊奈, 小出 彩香, 後藤 正博, 渋谷 和彦（東京都立八王子小児病院小児内科）

姉は4歳、妹は5歳の時に川崎病に罹患した、共にガンマグロブリンに不応であり、ステロイドパルスが有効であった。また、ステロイドパルス後に共に一過性の関節炎が認められた。この姉妹は臨床症状も治療に対する反応も類似しており、このような病態には家族性があることを示唆する症例であると思われたので報告する。

10) 高度肝機能障害をきたした川崎病の1例

○海野 浩寿, 菊池健二郎, 益子由梨佳, 菊池麻沙美, 大山 亘,
柴田 淳, 富田 和江, 林 良寛, 若杉 宏明, 白井 信男（東京慈恵会医科大学附属青戸病院小児科）
衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学小児科）

症例は4歳女児。頸部リンパ節炎で入院。発熱5日目に川崎病と診断。同日AST 4960 IU/L, ALT 1780 IU/Lと高度肝機能障害を認めた。IVIG 2 g/kg 単回投与行い症状・肝機能障害共に改善した。今回我々は過去の報告例に比べ著名な肝機能障害をきたした特異な経過をたどった川崎病を経験したので、文献的考察を含め報告する。

運営委員会だより

1. 12月の講話会参加者139名、新入会5名（会員数1,864名）。
2. 2008年1-3月は、思春期医療をテーマに摂食障害、卒煙指導、頭痛について教育講演を行います。
3. 東京都地方会名誉会員の推薦を受け付けました。また、来年度の地方会幹事改選の件で立候補者が少ないため、特に病院および診療所からの立候補を呼びかけます。
4. 平成22年東日本小児科学会の運営担当を希望する教室はご連絡下さい。
5. 順天堂大学奥村彰久先生依頼の熱性痙攣に関するアンケートは1月のプログラム発送時に同封することになりました。
6. 東京都地方会年会費支払い方法が郵便局からコンビニストアへの変更になります。
7. 東邦大学大森病院小児科四宮範明教授のご逝去を悼みます。

【会員登録事項の変更届についてお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。登録事項変更届出用紙をご送付いたします。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡ください。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 TEL: 03 (5388) 7007 / FAX: 03 (5388) 5193

地方会ホームページのお知らせ

更新しております。是非アクセスしてみてください。

URL: <http://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>

Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

※ Vista には未対応です。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007 / FAX 03-5388-5193

演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿は活字もしくはワープロ文字で）

出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期に）Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えて頂くようお願いいたします。

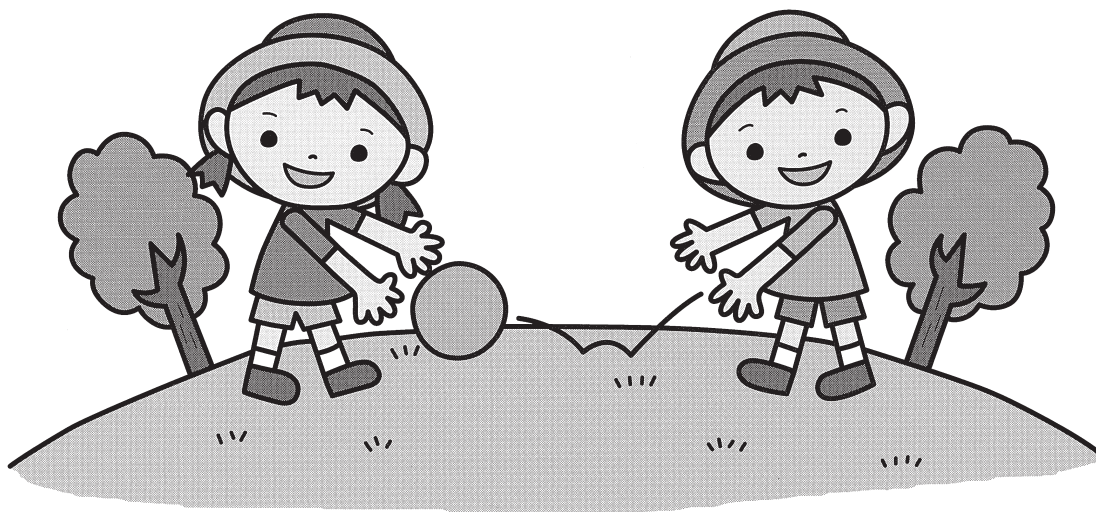
ロイコトリエン受容体拮抗剤
～気管支喘息治療剤～

薬価基準収載

ブランルカストDS 10%「アメル」

指定医薬品 〔ブランルカスト水和物製剤〕

PRANLUKAST DS10%「AMEL」



● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

発売元【資料請求先】

和光堂株式会社

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造販売元

共和薬品工業株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-13-9